

The Bluish Sky is high up over the Hill,
Birds are chirping sweetly in the Forest.
O Lads, in the Sacred Learning's Buildings
Pick up the Fruit of Science, in Earnest.
Our Varsity's Chukyo, Our Varsity's Chukyo,
Alma Mater's Alma Mater's Chukyo.

Dear new students!

This is one of our university songs. With this song I welcome you from the heart

Congratulations on your admission to Chukyo University! Dear family members who attend this ceremony, I also offer you my congratulations.

It is a great pleasure to greet you at this matriculation ceremony. You may not hear the word "matriculation". It means the official admission to membership. So, this day celebrates not only the beginning of your studying at Chukyo University, but also your becoming members of this community. From today on you are important members of our university.

冒頭の学歌にありましたように、皆さんを迎えるこの日、大学の立つ丘高く春の青空が広がり、キャンパスの裏の森では小鳥たちの歌声が響いています。集いたる若人はこの学び舎で学術の実を熱心に摘み取っていく—これぞ皆さんの母校、中京大学です。なんとロマンティックなことでしょう。そうです、大学は夢・希望にあふれる学びの場です。思い描いてみてください、この会場にこんなにも大勢の同期生がいて、さまざまな出会いがこれから始まります。大体決まった授業をとる高校時代とは違い、大学では、何を究めようかと、自分で科目を選択し、自分で学びを組み立てていきます。授業以外でも、課外活動をするとか、資格を取ってみるとか、海外留学という夢もあります。さまざまな可能性に満ちています。但し、それはあくまでも可能性であって、手を広げて待っているだけでも、口を開いて待っているだけでもダメです。意志を働かせ、自ら掴み取るものです。何かにチャレンジしてみよう、いや今ではなくもう少し先にしよう、他のことをやってみようなどと選び取っていくのです。安易な選択をしたり、流されることなく、よく考え、期待しつつ、勇気をもって決断するということが重要です。それが、今盛んに求められる《自主性》《自立性》に通じるのです。そして、これも先ほどの歌詞にあったように、自身でも、仲間とともにでも、教員の教授・指導を得ながら勉学の実を摘んでいきます。そして、一生の間でも貴重な、自由な時間を謳歌するときです。自身の意思を働かせ、自律的に自由に、「私の大学時代」を創り上げて行ってください。

少し、私のこれまでを振り返らせてください。私は皆さんにはもう馴染みのないことばになっているかもしれませんが、いわゆる「団塊の世代」、もう少し分かりやすく言いますと「第一次ベビーブーム」の世代で、今の倍以上同学年生がいました(現在は一一七万人くらいですが、当時二六〇万人以上でした)。京都市の生まれで、一教室には五〇数名の生徒が机を寄せ合っていました。そんなに深刻には考えていませんでしたが、客観的には競争の激しい世代でした。大学進学率は今ほど高くはありませんでしたが、受験戦争の中に置かれました。念願かなわず一年浪人生活をする「一浪」など「人並み」と呼ぶくらい普通でした。私もそれは経験しました。しかし、その「一浪(イチロー)」が良かったのです。最近引退表明したイチロー選手の記者会見にはしびれましたが、イチロー選手がよかったように、私の「一浪」も良かったのです、一年遅れたことで大学院を終えるちょうどその年に、中京大学で教員募集があり、合格でき、以来四五年教員生活を続けて来れたのでした。予定通りにならないことはその時は少々つらくても目標を見失わず努力することで、後には「あれがあつてよかった」と思えることも多いと思います。皆さんも参考にさせていただければ幸いです。

研究分野のことについても話します。学生に「先生は何を研究されていますか」ときかれて、「タマネギです」と答えますと、びっくりされます。ちょっとしたジョークでそう言うのですが、農学部出身ではありませんので誤解を解消するため、「ロシアの教会の屋根はタマネギの形をしていますね、私はロシアの教会の歴史を研究しているのです」と申しますが、

非常にマイナーな分野で、始めたころは先生もあまりご存知ありませんでした。日本語の研究書はほとんどありませんでした。ロシア語の本も社会主義時代のソ連でしたから、これまたありません。ところが英米書にはあったのです。ロシア語の本でも革命以前に書かれたものが見つかりました。そして、テーマに直結する本はなくても、関連する本などが見つかっていったのです。初めての領域に踏み込んでいくのは大変なこともありましたが、わくわくしたものでした。どうぞ、皆さんも一步一步新しいことを発見し、探究する醍醐味、達成感を味わってください。その際、スマホ万能時代ですが、本を利用してください。百万冊を超える蔵書のある図書館をどんどん活用してください。名古屋学舎には夜十時まで開いている名古屋図書館のほか、センタービルの図書館、法学文献センター、八時半まで利用できる豊田学舎の図書館があります。ネットで得られる情報だけに頼らないでください。簡単に得たいと知識・情報はすぐ忘れてしまいます。自ら苦勞して得られる知識・情報こそ我がものとなります。

大学での勉学は、学び習う・教わるの「学習」ではなく、学び修めるの「学修」を使います。修めるには、身につけるという意味が強く込められています。能動性が求められます。また、学びは独りでするものではなく、自分とは異なる意見・見方・考え方に触れ、意見を交わすこと、疑問が生じれば教員の指導を仰ぐことが必要です。高校でも導入されている「アクティブ・ラーニング」さらに重要視されます。本学の教育の目標は、「自ら考え、行動する、しなやかな知識人の育成」です。学んだことが我がものになっていけば、考え・行動する力につながり、変化にも柔軟に対応する力が生み出されるでしょう。

次に、皆さんに期待したいことを述べます。博報堂生活総合研究所の調査によりますと、今日の我が国の生活態度の特徴には、「公」より「私」、「先」より「いま」、「期待」より「現実」があるようで、今日の社会は《いま》《ここ》《わたし》に向かう社会だそうです。予測が難しい時代、地球温暖化、人口減を始め、将来への不安などが影響しているのかもしれませんが、さみしさを感じてしまいます。そんな中名作『星の王子さま』を書いたフランスの作家サン・テグジュペリの『人間の大地』という作品にこんな一節を見つけました。「人間であるということは、責任を持つこと。人間であることは、自分とは関係がないと思われるような不幸な出来事に恥を感じることに。人間であるということは、、、自分の石を据えながら世界の建設に奉仕していることを感じることに」というものです。私たちは、私たちとともに世界を形成している人たちのことを思い、悲しい出来事も他人事とせず、この先の人たちに責任をもつということかと思えます。どうぞそのように生きるべく、勉学に励んでください。

中京大学は、「大学の主人公は学生」を掲げています。一人ひとりの学生が存分に能力を発揮し、知力・学力とともに人格において高みを目指せる場を提供してまいります。そのためにも皆さんの声を聞きたいと常々願っています。時間が許すときは、昼ご飯には学食へ行きます。隣りに座ったら気軽に話しかけてください。

最後に、これは自分にとって大事なこととして信じるものを持ち、こうしたい・こうありたいという希望を持ち、自分の学ぶこと・することを愛して下さい。皆さんの本学での学びが豊かなものになるよう祈念して式辞とします。

2019年4月2日
中京大学長 安村 仁志